

JICA 中国事務所ニュース 5月号

目次

【速報】

- ◎ 「中国西部大地震への緊急援助を実施中」……………1

【最近のトピックス】

- ◎ 「中国で植林活動をする日中 NGO シンポジウム」という交流の場 ……2
- ◎ 「JDS 留学生同窓会設立大会」開催 ……3
- ◎ 「節水型社会構築モデルプロジェクト」R/D 署名式が行われる ……4
- ◎ 地方のリハビリ人材育成強化へ向け新プロジェクト開始 ……4

【ニュース】

- 中西部リプロ家庭保健プロジェクトでマネジメント研修を実施 ……5
- 来月の初めに、JDS 留学生第2陣の41名が日本へ出発 ……5
- 「民訴法」プロジェクトに住田専門家が赴任 ……6

【人の動き・主要行事】……………6

【寄稿コーナー】……………7

【中国の動き】……………8

【お知らせ】……………9

速報

●中国西部大地震への緊急援助を実施中！

5月12日午後2時28分、中国西部に位置する四川省の省都である成都から北西約90kmに位置する同省アバ・チベット族チャン族自治州において大地震が発生し、四川省のほか、重慶市、甘肅省、陝西省、雲南省、青海省、寧夏回族自治区等で甚大な被害が発生しました。

今回の地震で被災された皆様に心よりお見舞申し上げます。

JICAは、日本政府の決定を受け、以下の緊急援助を実施しています。

＜緊急援助物資の供与＞



四川省民政庁高副庁長(左)へ援助物資が贈呈されました
(中央:富田重慶総領事、右:古賀所長)

約6,000万円相当のテント、毛布、プラスチックシート、スリーピングマット、ポリタンク、浄水器、簡易水槽、発電機(コードリール付)をシンガポールの備蓄倉庫より成都空港まで空輸しました。5月18日、四川省民政庁で供

与式が行われ、当事務所より古賀所長が列席し、援助物資の目録を四川省民政庁に引渡ししました。

＜緊急援助隊救助チームの派遣＞



四川省綿陽市消防局、北京市消防局と連携して救助にあたる日本チーム

小泉崇(こいずみたかし)外務省国際協力局国際緊急援助室長を団長に、藤谷浩至(ふじやこうじ)JICA 国際協力人材部調査役(元中国事務所次長)はじめ警察庁、海上保安庁、消防庁からの副団長及び各組織の団員並びに医療班、業務調整員により構成される総勢61名の救助チームが、5月15日から21日まで派遣され、青川県、北川県等で救助活動を行いました。

なお、当事務所から、林宏之所員が業務調整員として参団するとともに、藤本次長、林哲浩所員が救助チームに同行しました。また、大久保所員、邢軍所員、馬理所員らが成都市において、緊急援助物資関連業務も含む後方支援活動を行いました。

＜緊急援助隊医療チームの派遣＞



医療チームを激励に訪れた温家宝総理(中央)と王毅外交部副部長(右)(左は田尻団長)

田尻和宏(たじりかずひろ)外務省アジア大洋州局中国課地域調整官を団長、加藤俊伸(かとうとしのぶ)JICA 東・中央アジア部東アジア課長(元中国事務所次長)と医師を副団長に、その他医師3名、看護師7名、薬剤師1名、医療調整員5名、業務調整員4名より構成される総勢23名の医療チームは、5月20日に成都入りし、現在四川大学華西病院で活動中です。

5月24日には温家宝首相が医療チームの活動状況を視察に来られました。温首相は、医療チームに対し、「救助チームに続き、医療チームを派遣いただき感謝している。中国が困難な時期に支援していただいたことに多大な感謝をしている。是非ともこうした気持ちを日本国民に伝えていただきたい」と感謝の意を表明されました。

なお、当事務所から、植村主査、桑内所員、周妍所員、李飛雪所員らが成都市において支援活動を行っています。

(総括次長 岡田実)

最近のトピックス

◎ 「中国で植林活動をする日中 NGO シンポジウム」という交流の場

日中林業生態研修センター計画では、4月25日に「中国で植林活動をする日中 NGO シンポジウム」を開催しました。今は少し下火になったと言われていますが、ひところは100

以上の日本の民間団体が中国に来て、現地の人たちと汗を流しながら緑化活動を続けてきました。これらの方々の多くは高い志を持つ一般市民で、中国の環境を緑化によって改善したいとか、かつての日中戦争に対するお詫びの気持ちを表したいとか、様々な動機

でこの活動を始められたのです。

しかし、中国の自然条件や社会制度は日本とは異なるわけで、様々な問題が立ちはだかりました。少なくとも「中国での緑化」という共通項を持ちますから、このようなときに、お互いに情報交換をしたり連携をしたりすることは大きな助けになります。だから、NGO と NGO 同士、民－民の交流の場を提供することは意義のあることでした。



(左から)清華大学王名教授、通榆県
環保ボランティア協会張高氏、万平氏

また、林業生態分野でも対中 ODA が減少して行く趨勢にあつて、民間協力の重要性は相対的に高まってきています。とりわけ NGO の緑化活動は、現地の一般市民と共同作業をしながら「相互理解の促進」を図るという草の根協力的な側面が強いものです。これらは、政府等が大きな投入を通して実施する公益事業(ODA を通しての技術協力プロジェクトを含む)とは相互補完関係にあるものです。だから、このように官－民の交流の場を持つことは、双方にとってまた非常に意義のあることです。

共通の目的を持つ者同士が、交流・連携を図ることによって、問題解決の糸口が得られ、相乗効果が生まれます。大切なのは、それを実現しやすい「場」を設けることだと思います。参加者のお一人から「これから JICA をもっと上手に活用したい」とのうれしいメッセージを頂きました。私たちのプロジェクトは「日中林業協力の拠点」的機能を果たすために、今後も、為了日中両国人民服務！でがんばります。

ちなみに、シンポジウムの内容紹介につい

ては、本プロジェクトのニュースレター (<http://www.cnjp-forestry.cn:80/jp/xmtx.php>) をご覧いただければ幸いです。

(長期専門家 成海政樹)

◎ 「JDS (留学生支援無償事業) 留学生同窓会設立大会」開催！



JDS 留学生同窓会設立大会全員での記念写真

去る4月19日、「JDS 留学生同窓会設立大会」が北京二十一世紀飯店にて開催されました。同会議には帰国留学生の他、日本大使館、商務部及び当事務所の関係者約50名が出席しました

会議において、帰国留学生らは会則案の確認、理事会の構成、会員名簿の整理、ネットワークの強化、または本年度の活動計画等について討議・確認を行いました。会員の皆さんは個人の研修生活、帰国後の発展について、それぞれ紹介したうえで、今後の活動内容に関して、真剣に議論をしました。また、日本大使館山本恭司参事官、商務部の謝城副処長、JICA 中国事務所藤本正也次長から同窓会の成立に対し、祝賀の意を表し、同窓会を通じ、日中両国各業界との交流及び日中両国国民の相互理解の増進に役に立つよう大いに期待するとの発言がありました。

会議後、全員が宮本大使の招聘を受けて大使公邸で行われた「日中青少年友好交流年記念交流会」にも参加しました。

JDS 事業は対中協力の重点分野・課題別経済協力方針(人材育成・相互理解促進)に合致しており、中国若手行政官キーパーソンの対日理解増進という協力プログラムに位置づけられています。これまで264名の若手

行政官(中央と地方)を受入れており、うち154名が帰国しました。これらの留学生の帰国後の活動展開や組織の形成等は当該事業にとって非常に重要なことであり、今回の同窓会設立は、その有意義な一歩であると言えます。これから同会の活動展開を通じて、留学生同士及び彼らと日中関係機関との交流が深まり、中国の社会発展に貢献するとともに、日中両国国民間の相互理解と信頼の増進にも役に立つことになると期待できます。

中国において、帰国研修員や留学生の積極的な発意により、既に医療分野同窓会、長期研修員同窓会が設立され、さまざまな学術交流や公益活動を行っており、好評を得ています。今後、JDS 留学生同窓会も右二つ同窓会と同様に、豊富多彩な活動が展開されますようお願いしております。

(相互理解班 李瑾、周妍)

◎ 「節水型社会構築モデルプロジェクト」R/D署名式が行われる!

4月29日、水利部において、「節水型社会モデル構築プロジェクト」のR/D署名式が行われ、水利部国際合作科技司劉志広副司長と古賀中国事務所長との間でR/Dに署名し、プロジェクトの実施について正式に合意しました。



モデル都市の一つである淄博市の萌山ダム

このプロジェクトは、水不足が深刻化している中国において、水資源の損失を減らし、社会全体で効率的な水資源の管理・利用を行う「節水型社会」の実現を目指して、そのモデルの構築のために技術協力を行うものです。北京の水利部にプロジェクト事務所を置き、河南省鄭州市と山東省淄博市をモデル都市として、

それぞれの都市における利水計画の策定と節水に関する普及・啓発活動を推進します。

プロジェクトのモデルサイトである鄭州市と淄博市は、ともに深刻な都市用水の汚染、地下水への過剰な依存などの中国北部都市に共通する課題に直面しています。省都として比較的大きな都市である鄭州と中堅都市である淄博において「節水型社会」のモデルを構築することにより、プロジェクト終了後には全国の都市へ普及させることを上位目標としています。

協力期間は3年間で、日本より国土交通省他からの長期専門家2名が6月をめぐりに派遣される予定です。そのほか、短期専門家による河川流量および生態環境等の観測に関する技術移転や、特に、節水行政の経験が豊富な日本の福岡市の協力による啓発活動等の技術移転を予定しています。

中国政府は、第11次五ヵ年計画(2006~2010)においても「節水」及び「水資源管理の強化」を打ち出しており、中国の水問題は今や安定的な発展にとっての大きな阻害要因となっています。JICAにおいても、「水資源の持続可能な利用」は、地球的規模の問題に対処するための協力の一環ととらえており、中国に対する重点開発課題となっています。本プロジェクトが、日中両国共に手を携えて、地球的規模の問題に対処する代表的なプロジェクトとなることを祈って、引き続き円滑な実施に向けて努力していきたいと思っております。

(業務班 松本丞史)

◎ 地方のリハビリ人材育成強化へ向け新プロジェクト開始

去る3月21日(金)、中国障害者連合会・程凱副理事長、中国リハビリテーション研究センター(CRRC)・李建軍主任、在中国日本大使館・香川公使、JICA 中国事務所・古賀所長など関係者出席の下、「中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト」の合意文書(R/D)の署名式が開催され、4

月から本格的にプロジェクトが開始されました。

中国では現在、障害者数は約8千3百万人に達していると言われており、また今後の高齢化により、さらにリハビリテーションのニーズが高まることが予想されています。加えて、今年は北京パラリンピックの開催もあって、障害者支援に対する関心は高まっています。

日本は、これまで20年以上にわたり、中国に対してリハビリ分野の協力を行い、中国初の総合リハビリセンターの開設やリハビリテーション人材の育成を支援してきました。中国政府も「2015年までに障害者が誰でもリハビリサービスを受けられる」との戦略目標を掲げ、全国的に施策を進めています。地

方における質の高いリハビリテーションの人材育成はまだ十分ではありません。



R/D署名後の記念撮影

今回スタートしたプロジェクトでは、中西部地区の陝西省、重慶市、広西チワン族自治区をモデルサイトとして、5年間の期間をかけて人材の育成体制を整備していく予定です。(業務班 坂元芳匡)

ニュース

■ 中西部リプロ家庭保健プロジェクトで マネジメント研修を実施



兵井専門家による説明の様子

4月27日から29日までの3日間、江蘇省太倉市にある中国リプロダクティブヘルス家庭保健研修センター(CTC)において第1回マネジメント研修が開催されました。今回の研修にはプロジェクトの対象20省・市・自治区における省級の担当者と中央の3名を加え、総勢30名が参加し、課題分析や計画策定の方法論、最終的にPDMの作成までをワークショップ形式で行いました。講師は兵井短期専門家(国立保健医療科学院)が務め、指導、コメントを行うと同時に、議論で疲れてき

たところでは随所にミニゲームを入れるなど飽きさせない工夫もこらされており、参加者は終始真剣に取り組んでいました。今回の研修では3~5省ごとのグループ単位で家庭保健の優先課題についてPDMを作成しましたが、地元に戻った後は、各省で県と保健計画について話し合いを行い、具体的な計画を立てていくこととなります。特にプロジェクトのモデルサイトを有する8省については7月に実施される本邦研修の場も活用し、計画をさらに効果的なものとしていく予定です。

(業務班 坂元芳匡)

■ 来月の初めに、JDS 留学生第2陣の 41名が日本へ出発

2007年度中国における人材育成支援無償事業—「人材育成奨学計画(JDS)」第1陣7名(日本語コース)が3月の初めに日本へ出発したのに引き続き、第2陣41名(英語コース)が6月4日に日本へ出発することとなりました。

留学生の皆さんは書類選考、運営委員会による総合面接及び受入大学教官による専門面接を経て、合格に至りました。

日本へ出発する前に、留学生向けの現地オリエンテーションも計画されています。二日間実施される予定のオリエンテーションにおいて ODA 事業や留学生活に関する講座・説明等に加え、「JICA 職員との意見交換会」も設けられています。JDS 留学生のすべては中国の中央或いは地方政府の行政官から構成されており、この機会に皆さんが JICA 事業に対する理解を深められるとともに、当事務所若手職員との交流を通じて人的ネットワークの構築にも大いに期待できるものと思います。

中国での「人材育成奨学計画(JDS)」は2002年度から開始され、これまで6回の実施で合計264名を受入れました。2008年度の事業実施に関し、5月7日、胡錦濤国家主席の訪日にあわせ、東京において、高村正彦外務大臣と陳徳銘・商務部長との間で交換公文(E/N)の署名式が行われました。

(相互理解班 周妍)

■ 「民法」プロジェクトに住田専門家が赴任～中国初の弁護士の長期専門家～

4月8日付で、「民法・仲裁法整備プロジェクト」の長期専門家として住田尚之(すみ

だ・たかゆき)専門家が着任されました。これから2年間の任期中、全人代をC/Pとして民法や仲裁法の改正のための協力を行います。住田専門家は大学院在学中の2001年に司法試験に合格、2003年に弁護士になった、中国事務所で初めての弁護士資格を持つ長期専門家です。日中関係が深まりを見せる中、早くから中国法務にご関心を持っていた住田専門家は、弁護士就任後、北京に一年間留学され、中国語も堪能です。これからの活躍が期待されます。

(業務班 大久保晶光)

(住田専門家から一言)



「民事訴訟法・仲裁法改善プロジェクト長期専門家として今年の4月から赴任しております住田尚之と申します。このたび、中国の立法に関わることができるという稀有な機会をいただくことができ、張り切っております。全力を尽くして励みたいと思っておりますので今後ともご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。」

人の動き ・ 主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(5月)

循環型経済第2次事前調査団 5/25-31

(2) 5月の主要行事

日中NGOシンポジウム

(障害者支援をめぐって)(6/26-27)

寄稿 コーナー

今年の4月より新規に立ち上がった中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクトの業務調整員として



多田専門家

今年の4月より新規に立ち上がった『中国中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト』の業務調整員として赴任し、早1ヶ月が経ちました。慣れ親しんだ北京とは言え、新たな仕事に携わる新鮮な気持ちを持って赴任して来ましたが、業務が本格的に走り始めた現在もその気持ちは変わらずに毎日を過ごすことが出来ています。中国は外国にあらず、というぐらいのつもりで、中国という国や中国の方々とは日々接していますが、それにあっても変わらぬこの新鮮さは、ひとつは刻々と変化するこの北京という街と、もうひとつは、その中で立ち上がろうとしているこのプロジェクトに携わっていることによるものだと思っています。

早い速度で変化してゆく街そのものは私にとって決して新鮮たり得ませんが、その街に

あっても変わらぬものや人の営みに出会えた時にはしっかりと新鮮さを感じる事が出来ます。カウンターパートであり勤務先でもある中国リハビリテーション研究センターでは毎日多くの患者さんが治療に訪れリハビリを行なっています。通勤途中に見上げる多少の歪みを感じさせるガラス張りのビルも北京ですが、黙々と歩行訓練をする片麻痺の患者さんも北京であり、少し浮かれ気味の街で生活する私の足をしっかりと地に付けてくれているのは、もちろん後者、これら人々の姿です。今回のプロジェクトは人材の層が薄い地方3省市に対して、遠隔教育システムを通じたりハビリ人材養成のシステムを構築しようというのですが、その先に描いているのはこれら地域の障害者の方々が適切なりハビリテーションを受けている姿です。プロジェクトチームとして、あらゆる取り組みを通じて適切に事業を推進して行くことはもちろんのこと、個人としては地域社会の中で営まれる人々の生活にも十分思いを馳せながら、バランスの取れた視点でプロジェクトに携わって行くことが大切であると考えています。

週末は6歳、3歳、0歳の息子たちに囲まれて体を休める時間ありませんが、プロジェクトの推進と息子の成長、さらに自分自身の成長を加えて、今後の北京生活の目標にしたいと思っています。オリンピック後の中国がより「豊か」な市民社会となることを願って。(長期専門家 多田誠治)

中国の動き

新緑の季節を迎え、中国においては緑化活動が盛んになっています。今回は所員が NGO と一緒に行った植林活動を紹介します。

イオン環境財団「万里の長城植樹」ボランティアに参加して

去る4月27日(日)にイオン環境財団が主催する植樹活動にボランティアとしてJICA関係者総勢7名で参加しました。日曜の早朝、眠い目を擦りながら何とか起きて集合し、大型バスを連ねて万里の長城近くのサイトへ到着すると…数え切れないくらいの日本人と中国人がいてすごい熱気でした。日中合わせてなんと2,000名を超えていたそうです！



植樹を終えて全員での記念撮影

イオン環境財団では、日本国内では数箇所、海外では中国やマレーシアなど出店している国で、お店のお客様を募ってこうした植林を展開されているそうです。

晴天に恵まれ、汗ばむほどの陽気の中で山肌を歩き、幼木を植えて、とても気持ちよく過ごした一日でした。北京市内に戻った後に、みんなで飲んだビールが体に染み入ったのは言うまでもありません。(業務班 林宏之)

「臭くて美味しい」新緑の旅

4月4日から6日、相互理解班一同及び班友の成海正樹さん(日中林業生態研修セン

ター業務調整員)が山西省大同市でのエコツアーを実現しました。2泊3日の短い旅ですが、私たちはミニゴールデンウィークの超満員列車を体験し、大同市の美食を満喫し、JICA 草の根技術協力事業の実施現場を視察する等、充実した旅行を満喫しました。



植樹を終えて全員での記念撮影

列車に乗って6時間半もかからないうちに、私たちは大同につきました。荷物をホテルに置いて、お腹がすいた私たちはレストランに直行。お肉が大好きなメンバー一人に注文を任せた結果、1時間以上の散歩をしないと食べた肉が消化できないくらいになりました。…深夜、私達は豪華な4人部屋に集合して、周妍さんの功夫茶を楽しみました。おいしいお茶でした！



大同「臭豆腐」との初対面

翌日朝早く、私達は「大同中華育孤学校」向けに出発しました。そこには、全国から来た孤児800人余りがいますが、少年たちの希望が満ちており、彼らの人生の転換点とも言

える学校です。私達は学生たちを励まし、各自持参していた文房具や子供服などを学生代表に寄付しました。午後、終了した草の根技術協力事業「黄土高原における森林再生事業」(パートナー型)の実施サイトを見学しました。そのうえ、一人ずつ2本の木も植えました。12本の極小林ですが、一応相互理解記念林と命名しましょう。

せっかくですので、中国一と言われる「九龍壁」や「華嚴寺」など大同の名所をもぶらぶらして楽しみました。また、羊のシャブシャブや面食など名産もいっぱい体験しました。そのうち、「臭豆腐」はかなり女性団員を引き寄せていましたが、男性団員は余り好きになれなかったようです……。

(相互理解班 周迎、王莉)

☆【お知らせ】 ☆

1. 来たる6/10(火)~6/15(日)に中国科学技術館(<http://www.cstm.org.cn/>)にて、日中市民環境(3R=Reduce Reuse Recycle)交流展を開催します。内容は、日本の石川県立大学教授・京都大学名誉教授である高月氏の環境教育漫画の展示、エコバックデザインワークショップの開催、同氏による環境問題についての講演(日中友好環境保全センターにて)など盛りだくさんですので、皆さん、この機会に楽しみながら環境のことを考えてみましょう。ふるってご参加下さい!(業務班大久保、長安)



=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静(shenxiaojing.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。
=====

* その他お知らせ

JICAのホームページ: [中国ライブラリー](http://www.jica.go.jp/china/library/) (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

中国 トピックス (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>